

委員 井上隆司、尾野恭一、○久保義弘、鍋倉淳一、持田澄子、矢田俊彦、柚崎通介

報告事項 委員会報告の形式から逸脱した箇所もあるが、今期の国際交流活動について記す。

1. 第 93 回生理学会大会(札幌)における国際交流関連シンポジウムの企画について

第 93 回大会において、(2) (3) (4) の 3 件を実施する。

(1) KOJACH シンポジウムの日韓、日中、両シンポへの発展的変更について(確認のため再記)

これまで、PSJ 大会において、毎年、韓国生理学会 (KPS) および中国生理学会 (CAPS) と 3 国で KOJACH シンポジウムを実施してきた。今回、韓国生理学会 (KPS) からの申し入れを受け、中国生理学会 (CAPS) とも相談を行い、両者の合意を得て、KOJACH シンポジウムを、発展的に解消して KPS-PSJ シンポジウム、CAPS-PSJ シンポジウムのふたつに分けて実施することとし、鹿児島大会から開始した。どちらも、毎年 1 人ずつ講演者を招いて実施する(全体で 2 人/年)ため、(KPS, CAPS から 1 人ずつ計 2 名を招待していた) KOJACH シンポジウムと予算規模に変更はなく、日中、日韓それぞれの経費の上限を 15 万円(合計 30 万円/年)とし、これまでの KOJACH シンポジウムの予算を充てて実施する。鍋倉 FAOPS2019 組織委員会委員長の要請により、上記両シンポジウムに、-- Towards FAOPS2019 (FAOPS2019 に向けて) -- といった副題を付記する。

(2) 日中合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを、CAPS 国際交流担当 Vice President の Ying-Shing Chan 教授と連携して両生理学会の公式な活動として企画した。PSJ から 3 人、CAPS からの招待講演者 1 人の合計 4 人の講演者で構成する。

Japan-China Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Regulation of the function, structure and trafficking of ion channel complexes by accessory subunits”

日中合同シンポジウム -FAOPS2019 に向けて-

「イオンチャネル複合体の機能、構造、細胞内輸送の、副サブユニットによる調節」

Chairs: Dr Yoshihiro Kubo & Dr KeWei Wang

Speakers:

Dr KeWei Wang (Dept Neurobiol, Peking University) **PSJ 招待**

Dr Yoshihiro Kubo (Dept Molec Physiol, Natl Inst Physiol Sci)

Dr Yasuo Mori (Dept Synthetic Chem and Biol Chem, Kyoto University)

Dr Shinji Matsuda (Dept Engineering Science, University of Electro-communications)

(3) 日韓合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを、KPS 学術担当の Sung Joon Kim 教授と連携して両生理学会の公式な活動として企画した。PSJ 側から 3 人、KPS からの招待講演者 1 人の合計 4 人の講演者で構成する。

Japan-Korea Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Gut to brain information flow in systemic physiology”

日韓合同シンポジウム -FAOPS2019 に向けて-

「消化管から脳への情報発信と全身機能制御」

Chairs: Dr Toshihiko Yada & Dr Young Min Cho

Speakers:

Dr Young Min Cho (Dept Internal Med, Seoul Natl Univ College of Med) **PSJ 招待**

Dr Tohru Hira (Grad School of Agr, Hokkaido Univ)

Dr Toshihiko Yada (Dept Physiol, Jichi Med Univ)

Dr Ikuo Kimura (Grad School of Agr, Tokyo Univ Agr and Tech)

(4) 日豪合同シンポジウムについて

下記のシンポジウムを、AuPS President の Graham Lamb 教授と連携して両生理学会の公式な活動として企画した。PSJ から 2 人、AuPS からの招待講演者 2 人の合計 4 人の講演者で構成する。なお、本シンポジウムは、FAOPS 2019 組織委員会・鍋倉委員長の企画面、財政面でのご尽力をいただいて実施されるものである。PSJ からは、札幌での滞在費（1 名につき上限 5 万円、合計 10 万円）を支援する。次回以降の経費については継続審議とする。

Japan-Australia Joint Symposium -Towards FAOPS2019-

“Recent advances in Hearing Research: From Channel to Behavioral Regulation”

日豪合同シンポジウム -FAOPS2019 に向けて-

「聴覚研究の最前線:チャンネルから行動制御まで」

Chairs: Dr Junichi Nabakura (Natl Inst Physiol Sci) &

Dr Andrew Moorhouse (Univ South Wales)

Speakers:

Dr David Ryugo (Garvan Institute) **PSJ 招待**

Dr Gary Housley (Unive New South Wales) **PSJ 招待**

Dr Hiroshi Kuba (Nagoya Univ, Graduate School of Medicine)

Dr Hiroshi Hibino (Niigata Univ, School of Medicine)

2. 韓国生理学会 2015 での合同シンポジウムの開催について

KPS 元会長の Byung-II Min 教授と、毎年 PSJ 大会にて日韓シンポジウムを実施すること、隔年で KPS 大会にて韓日シンポジウムを実施することを、基本合意している。2015 年は、KPS 大会における韓日シンポジウム実施の年にあたるため、KPS の学術担当の Sung Joon Kim 教授から講演者の推薦依頼があった。”Model- based analysis of physiological system – physiomic approach” と題したシンポジウムの講演者として、松岡達教授(福井大医生理)を推薦し、KPS 大会(2015 年 10 月 21-23 日、プサン)にて招待講演を行うことになった。

3. 中国生理学会主催の国際生理学会 2016 での CAPS-PSJ 合同シンポジウムの開催について

CAPS 主催の国際生理学会 (2016 年 8 月 5-7 日、北京) が、開催される。PSJ に対しシンポジウム 2 件の提案を求められた。旅費支援は無い。PSJ 会員に公募したところ、以下の 2 件の提案が届いた。両案を CAPS に対して提案した。現在 CAPS にて他国からの提案と併せて検討中である。

[シンポジウム案 1]

Tentative Symposium Title:

“Physiology and Pathophysiology of Cystic Fibrosis Transmembrane conductance Regulator (CFTR) in Asia: Asian CF and CFTR-mediated non-CF disease”

Chairs: Dr Yoshiro Sohma (Dept Pharmacol, Keio Univ School of Med)
To be named (CAPS side)

Speakers:

Dr Hiroshi Ishiguro (Research Center of Health, Physical Fitness and Sports, Nagoya Univ)

Dr Yoshiro Sohma (Dept Pharmacol, Keio Univ School of Med)

Dr Tsukasa Okiyoneda (Dept Biomed Chem, School of Sci & Tech, Kwansei Gakuin Univ)

Dr Hsiao Chang Chan (Epithelial Cell Biol Res Center, Chinese Univ of Hong Kong)

Dr Tonghui Ma (College of Basic Med Sci, Dalian Med Univ)

[シンポジウム案 2]

Tentative Symposium Title:

“Dynamic aspects of structure, function, regulation and physiological relevance of ion channels”

Chairs: Dr Yoshihiro Kubo (Dept Molec Physiol, Natl Inst Physiol Sci)
To be named (CAPS side)

Speakers:

Dr Yasushi Okamura (Dept Integrative Physiol, Osaka Univ Graduate School of Med)

Dr Hiroko Takeuchi (Dept Biophysical Dynamics, Osaka Univ Graduate School of Frontier Biosci)

Dr Yoshihiro Kubo (Dept Molec Physiol, Natl Inst Physiol Sci)

Dr Zhuan ZHOU (Institute for Brain Research, Peking Univ) (Not confirmed)

To be named (CAPS side)

4. オーストラリア生理学会 AuPS2016 での AuPS-PSJ 合同シンポジウムの開催について

AuPS President の Graham Lamb 教授より、AuPS 2016 大会 (2016 年 12 月 4-7 日、アデレード) において、PSJ から 2 名の講演者を招いて、両生理学会による豪日合同シンポジウムを開催したい旨、連絡があった。AuPS より、PSJ 講演者 1 人当たり 1,000 オーストラリアドルの旅費支援が与えられる。具体的な企画依頼が届いたところで、ぜひ提案したいと考えている。

5. FAOPS2015 関連

FAOPS2019 組織委員会の鍋倉委員長から別途報告があると思われるので、本委員会関連の事項について簡略に記す。

(1) PSJ から提案した、鯉淵典之教授オーガナイズ、および加藤総夫教授オーガナイズの、2 件の

シンポジウムが実施される。

(2) 会員に対し、鍋倉教授から、参加登録、および演題登録をよびかけるメールを送信した。

(3) FAOPS2015 会期中に開催される総会 (General Assembly) に参加する代議員 (Delegate) 5 名として、FAOPS2019 組織委員会の鍋倉淳一教授、加藤総夫教授、鯉淵典之教授、富永真琴教授、国際交流担当の久保を、栗原理事長から、FAOPS の General Secretary の Harbindarjeet Singh 教授に対し、推薦した。

6. IUPS 2017 関連

IUPS 分科会から別途報告があると思われるので、本委員会に関連する点を中心に記す。

IUPS2017 が、2017 年 8 月 1-5 日、リオデジャネイロ(ブラジル)にて開催される。

(1) プログラム委員会から、学協会等を通してではなく、web 上で個々人に対する Plenary および Keynote Lecturers の提案の呼びかけがあったため、生理学会会員にメールで連絡して周知し、積極的提案を呼びかけた。ふさわしい日本人講演者の名前が挙がらない事態を恐れ、学術会議 IUPS 分科会の御子柴克彦委員長等と相談しつつ、Plenary Lectures 3 名、Keynote Lecturers 3 名を、久保から提案した。

(2) 2015 年 7 月末に、ブラジルにて、プログラム委員会が開催され、日本からは、IUPS 理事かつ Commission 4 (Neurobiology) の Chair の御子柴教授、Commission 2 (Circulation & Respiration) の Chair かつ本国際交流委員会メンバーの井上隆司教授が出席された。Plenary および Keynote Lecturers の選考が行われたが、最終決定までには至らず、まだアナウンスされていない。財政面の見通しについて、不安がある模様であるため、成り行きを注意深く見守りたい。

(3) 2015 年下半期に、Symposia 提案の個々人に対する公募が web 上で行われる予定である。財政状況を踏まえると、Symposiasts の旅費の工面ができる提案が優先される可能性も想定される。状況を見守り、優れた提案がなされるよう PSJ 会員に呼びかけたい。

(4) プログラム委員会 Chair の Benedito H. Machado 教授から、Partner Societies として PSJ のロゴマークを web page に掲載したいという要請があった。IUPS への日本の公式な窓口は PSJ ではなく日本学術会議 IUPS 分科会であることを説明したが、なお、パートナー生理学会としての PSJ のものを使用したいということだったため、承認した。

7. 今後の展望について

FAOPS 2019 の成功に向け、アジアオセアニア諸国との連携や学術交流を推進していくことが重要であると考えている。これまで連綿と交流を行ってきた中国、韓国との良好な関係は、発展的に維持できている。さらに、オーストラリア生理学会が交流に積極的であるため、ぜひ、今後も、交流を発展させていきたい。タイとの交流も、FAOPS2015(バンコク)での活動を通じ、また、チュラロンコン大学薬学部と生理研間で結んでいる学術協定等も活かし、拡充していきたい。さらに、今後、台湾等、他の国々との交流を開始する機会も模索したい。

常任幹事会への提案(議事として諮りたいことをお書き下さい)

無し。